

1. 皆さん、こんばんは。岩本です。いま『ペンタゴン・ペーパーズ』という映画が話題になっております。すでに見た方もいらっしゃるでしょう。この映画は、政府による検閲と戦った新聞社を描いたスピルバーグの監督作品です。これは、自分を批判するメディアの報道を「フェイク・ニュース」と決めつけ攻撃するトランプ大統領を強烈に批判したものです。そして、特定の新聞社を名指しで批判し、放送免許をちらつかせてテレビ局を恫喝する安倍政権に対する批判として見ることもできます。
2. この映画の陰の主演は、当時国家秘密とされていた「ペンタゴン・ペーパーズ」です。この文書は、1960年代、ケネディとジョンソン政権において国防長官を務めたマクナマラが作らせた報告書です。正式なタイトルは「アメリカのベトナム政策に関する決定プロセスの歴史」というものです。この文書は、1971年に元政府高官のエルスバーグによってリークされ、これをニューヨーク・タイムズが3ヶ月かけて精査して報道しました。
3. このスクープがアメリカのみならず、世界中の人々に大きな衝撃を与え、最終的にベトナム戦争を終結させるほどのインパクトを持ったのは、ペンタゴン・ペーパーズに書かれていた内容が真実だったからです。真実こそが力なのです。マクナマラ自身、2年間秘密裏に作られた報告書を読んで、ベトナムで起きたことのために何人もの人間が絞首刑に処せられるだろう、とコメントしたとされています。ではなぜマクナマラは、政府や軍にきわめて危険な報告書を作らせたのか。彼はこう言っています。ここがポイントです。「生の資料を〔将来の〕学者たちに委ね、この当時の出来事を再検討できるようにするためである」と。公文書は、今は秘密扱いであったとしても、将来秘密指定が解除されたとき、その当時の出来事を改めて吟味するために正確に記されるべきである。そうでなければ、国家は同じ過ちを繰り返すことになる。そうならないために記録を残すのが、政治家の責任です。安倍首相の周辺を固める政治家や官僚たちに、この自覚があるとはどうてい思えません。
4. 『ペンタゴン・ペーパーズ』で問題となったのは、国家による新聞の検閲でした。民主政治において、主権者である国民が賢明な政治的な判断を下すためには、正しい情報と多様な意見に接する機会が保障されてなければなりません。政府にとって都合の悪い情報や手厳しい批判を国民に届く前にこれを差し止めることを政府に許せば、民主政治は機能しません。だから、検閲は絶対に禁止されます。
5. いま安倍政権は、マス・メディアが取材で得た情報を政府が事前に検閲するよりもさらに悪辣なことに手を染めています。森友・加計問題や自衛隊の日報問題に見られるように、自分たちが記録・作成した情報を自分たち自身で検閲して、都合が悪ければなかったことにしたり、改善したりすることです。こうなってしまうと、国民だけでなくマス・メディアも、そして歴史的な評価を下すべき将来の人々からその機会を完全に奪うこととなります。これは、検閲の最悪のかたちではないかと私は思います。このような公文書の破棄・隠蔽・改竄は、日本の民主主義を根元から腐らせるものであり、断じて許すわけにはいきません。民主主義を守るのも、民主主義を立て直すのも、国民自らがやるしかありません。安倍内閣の一刻も早い総辞職を求めて、ともに頑張りましょう。本日はどうもありがとうございました。